

## 2016年11月の金融経済概況のポイント

### ■景気の基調判断

- 今月も景気判断については、「個人消費等の回復に遅れがみられるが、基調的には持ち直している」との判断を継続しました。個人消費は、新車販売が持ち直してきた一方、大型店売上高は、ほぼ前年並みの動きとなっています。観光は、外国人観光客が頭打ちになっていることに加え、台風の影響も残ったことから、弱めの動きとなっています。一方、公共投資は緩やかに増加しているほか、雇用環境は改善傾向が続いています。

### ■個人消費の動向

- 大型店売上高は、9月末に一部の大型店(西武旭川店)が閉店しましたので、10月は本年および前年とも同店を除くベースで前年比を算出しています。これで見ると、10月は前年比+0.7%と小幅の増加でした。9月は同店の閉店セールにより同+10.5%と大きく伸びていました。このように閉店セールの影響とその反動(消費者の先食い)、周辺店舗への影響が消費の実態を読みにくくしており、幅を持ってみる必要があると思いますが、基調としてほぼ前年並みの動きになっているとみています。
- 10月の新車登録台数は、前年比+1.4%でした。当月の伸びは小幅でしたが、これで3か月連続の増加です。「軽自動車を除く車種」と「軽自動車」とに分けてみると、「除く軽自動車」は前年比+0.3%、「軽自動車」も+3.6%と増加しています。また、これは個人消費ではなく設備投資になりますが、トラックやバンなども最近では順調に売れているようです。自動車販売は、比較的しっかりした動きになっているとみています。

## ■観光の動向

- 観光は、引続き弱めのデータが目立ちました。
- 10月の道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数は、前年比▲2.3%と9月に続き前年割れでした。国際線は同▲39.4%とこれも9月に引続き大幅減少で、5か月連続の前年割れとなりました。国際線は4月から台湾便の一部が減便になっていることに加え、9月から北京便が運休になったことが響いています。なお、空港別にみると、旭川空港は国内・国際線とも前年割れ(全体で前年比▲8.5%)でしたが、稚内空港(前年比+18.9%、女満別空港(同+1.7%)、紋別空港(同+9.3%)はいずれも増加しています。
- 10月のホテル・旅館宿泊者数は、前年比▲7.8%と5か月連続で前年割れとなりました。市内ホテルの稼働率は、81.7%でこれも前年水準を下回っています。
- 各地観光は、稚内・利尻礼文フェリーが前年比+5.9%と健闘したほかは、軒並み前年割れの実績となりました。
- 観光業者の方に話を伺うと、中国、台湾を中心に外国人観光客が減少しているようです。旭川発着の国際便減便の影響に加え、札幌方面から回ってくる観光客も頭打ちになっているようです。年初来の円高が影響しているのではないかとの声が聞かれました。また、台風の影響もまだ尾を引いているようです。層雲峡地区の宿泊施設で団体旅行のキャンセルが続いているほか、新規予約も低調のようです。
- 札幌周辺では、まだ外国人の入込みも好調で、観光が陰っている様子はないようですが、道北では頭打ち感がはっきりしてきてしまいました。足許11月は、もともと観光はオフシーズンですが、例年に比べ雪が早いこともあって客足の鈍い状況は続いているようです。観光は、これまで道北地域の景気を支えていた柱の一つただだけに、今後の動向がやや気掛かりです。

## ■公共投資の動向

- 10月の公共工事請負額は、上川、オホーツク、宗谷の3総合振興局の合計で前年比▲24.1%と単月では大幅減少でした。もっとも、これは国が年度予算の前倒し発注を進めたことによるものとみられます。4～10月の累計では、同+1.1%と前年実績を上回っています。建設業界では、こうした今年度予算の前倒し執行や農業土木を中心とする前年度補正予算分の執行に加え、災害復旧のための緊急工事もあり、人手不足と相まって、各社とも繁忙となっているようです。

## ■住宅着工

- 新設住宅着工戸数は、8月まで7か月連続で増加していましたが、9月は前年比▲12.3%と前年割れでした。住宅着工の統計は振れが大きいので、読み方が難しいのですが、四半期ごとにみると、本年1～3月前年比+20.9%、4～6月同+3.1%、7～9月同+7.1%ときていますので、引き続き持ち直し基調にあるとみています。本格的な回復につながるのか、引き続き注視したいと思います。

## ■雇用動向

- 雇用状況を示す指標は、引き続きタイトであることを示しています。9月の有効求人倍率は、旭川が1.06倍、稚内が1.18倍、北見が1.23倍、網走が1.17倍でした。新規求人数も、全体で前年比+12.8%と高い伸びを続けています。

## ■今後のポイント

- 10月3日に公表した短観では、道北地域の企業の業況判断DIは+17と良好だった（3か月前と比べても改善）ほか、収益見通しも比較的しっかりしたものとなっていました。こうした調査結果を踏まえても、現在の道北地域の景気は決して悪くはなく、そこそこ良い状態にあるとみています。

➤ 今後に関しては、次の5点に着目していきたいと考えています。

① 観光の動向

インバウンドの減少を主因に頭打ちの様相が明確になってきていますが、これが冬場の道北観光にどのように影響するのか、注視したいと思います。

② 個人消費の動向

一部大型小売店閉店後の旭川の個人消費がどうなるか、引続き注目したいと思います。また、足許堅調に推移している自動車販売も息の長いものになるか否か、注目しています。

③ 設備投資

9月短観の調査結果では、企業の収益は比較的良好であるにもかかわらず、2016年度の設備投資は低調でした（2015年度実績：前年比▲69.0%、2016年度計画：同▲20.0%）。年内に12月短観の公表を予定していますので、その結果に着目したいと思います。

④ 住宅投資、民間建築

新設住宅着工戸数や建築物着工床面積（非居住用）については、持ち直し基調にあるとみていますが、これが現在の緩和的な金融環境の下での投資意欲の増加を反映したものなのか、単なる一時的な振れによるものなのか、見極める必要があると思います。

⑤ 賃金の上昇

企業業績が比較的良好である中で、賃金を上げる会社もみられていますが、これが目に見えて広範化しているというようにはまだ感じられません。道北地域の景気がしっかり回復していくためには、消費が活発になる必要があります、そのためには所得が着実に増える必要があります。その意味で、地元企業の賃上げの動きは今後の大きなポイントになると思います。

以 上